鷲住	筑波嶺	裳羽服津乃	其津乃上	率而	未通壮士之
鷲の棲む	筑波の山の	裳羽服津の	その津の上に	率ひて	娘子壮士の
わしのすむ	つくばのやまの	もはきつの	そのつのうへに	あどもひて	をとめをとこの
鷲の棲む	筑波の山の	裳羽服津の	その津の上に	連れ立った	女と男が
往集	加賀布嬥歌尒	他妻尒	吾毛交牟	吾妻尒	他毛言問
行き集ひ	かがふ嬥歌に	人妻に	吾も交らむ	わが妻に	人も言問へ
ゆきつどひ	かがふかがひに	ひとづまに	われもまじらむ	わがつまに	ひともことと へ
集まって	歌うかがいでは	人妻に	私も交じろう	私の妻に	皆も言い寄れ
此山乎	牛掃神乃	従来	不禁行事叙	今日耳者	目串毛勿見
この山を	領く神の	昔より	禁めぬ行事ぞ	今日のみは	めぐしもな見そ
このやまを	うしはくかみの	むかしより	いさめぬわざぞ	けふのみは	めぐしもなみそ
この山を	支配する神が	昔から	咎めないことだ	今日だけは	見逃がせ

事毛咎莫
言ふも咎むな
いふもとがむな
言っても咎めるな

万葉集
巻九　1759
高橋連虫麿

https://kochi-esc.sakura.ne.jp/wordpress/%e4%b8%87%e8%91%89%e3%81%ae%e5%9c%b0%e5%ad%a6/